

## 医学概論 IV

### 【Medical Humanities IV】

担当責任者 教授（医学概論） 藤野 昭宏

#### ねらい

「医学とは、できる限り確かな医学知識 (Science) と技術 (Art) を用いて、病いにある人の自己回復力を全人的に援助する人間学 (Humanity) である。」医学生の方針でこの意味を十分に理解・体得するために、次の方針に基づいた教育を行う。

1. 講義および体験学習を通じて、「医学とは何か」「人間とは何か」について理解を深めることにより、人間に対する豊かな感性と靈性を養う。
2. 医学概論教育を通じて本来の自分の生き方を再発見・探求することにより、専門職である医師となるための基本的な倫理観・態度を養う。
3. 産業医学マインドの原点である、①上医をめざす、②感謝されない医師、③哲学する医師の3つの基本的医師像に加え、④実感として共感する医師となれるよう、その基本的態度の体得に努める。

#### 学修目標

1. 漢方医学の基本的概念(気・血・水、陰陽、虚实、表裏、寒熱)に基づいた診断方法(望診・聞診・問診・切診)を説明できる。(IV-1)
2. 漢方医学の「証」および「随証治療」について説明できる。(IV-8)
3. 漢方方剤の構成、薬理作用、適応症、副作用について説明できる。(V-5)
4. 漢方医学による感染症予防及び治療について説明できる。(V-5)
5. 臨死患者と対話できるアプローチ方法やホスピス病棟の意義について説明することができる。(VI-1)
6. 患者の心理的プロセスや患者の意思決定能力について説明することができる。(IV-8)
7. 実践的な臨床現場における倫理問題を臨床倫理的アプローチに基づいて論じることができる。(I-1, I-3)

#### 事前事後学習の方法

1. シラバスに記載されている授業項目について、指定教科書や参考書などで事前に予習しておくこと。
2. 配布された講義プリントを熟読して講義内容の復習をすること。

#### 成績評価方法・基準

1. 定期試験(約85%)、講義レポート(約15%)の結果を基に総合的に判断する。
2. 100点満点換算で、A、B、C、D、Fの5段階評価とする。

#### ○教科書

寺澤捷年著「症例から学ぶ和漢診療学 第2版」2004年 医学書院

#### ○参考書

1. 日本東洋医学会学術教育委員会編集「学生のための漢方医学テキスト」2007年 日本東洋医学会
2. 三瀧忠道著「はじめての漢方診療ノート」2007年 医学書院
3. 藤平健、小倉重成著「漢方概論」2002年 創元社
4. 松田邦夫著「症例による漢方治療の実際」1997年 創元社
5. 花輪壽彦著「漢方診療のレッスン」2000年 金原出版
6. 藤平健著「漢方臨床ノート 治験篇」1996年 創元社
7. 三谷和男編著「傷寒論の読み方-古典を臨床に生かす-」2003年 緑書房
8. 曾野維喜著「東西医学よりみた傷寒論」2002年 南山堂
9. 白幡聡、藤野昭宏編「小児医療のインフォームドコンセント」2010年 医薬ジャーナル社
10. 赤林朗、蔵田伸雄、児玉聡訳「臨床倫理学」2006年 新興医学出版
11. Albert R. Jonsen, Mark Siegler, William J. Winslade著「Clinical Ethics」2006年 McGraw-Hill Companies
12. 福井次矢、浅井篤、大西基喜編「臨床倫理学入門」2003年 医学書院
13. チャールズ・ハインド編「いかに深刻な診断を伝えるか」2000年 人間と歴史社

4年次

14. E・キューブラー・ロス著「死ぬ瞬間」2004年 読売新聞社
15. カール・ベッカー著「死の体験」2002年 法蔵館
16. ブルース・グレイソン編「臨死体験」1994年 春秋社
17. 日野原重明著「死をどう生きたかー心に残る人びとー」1983年 中公新書
18. 河合隼雄著「生と死の接点」1989年 岩波書店
19. 立川昭二著「日本人の死生観」1998年 筑摩書房
20. 新屋重彦著「癒しと和解」1995年 ハーベスト
21. 立川武蔵著「癒しと救い」2001年 玉川大学出版部
22. Encyclopedia of Bioethics ,3rd edition 全5巻 2004年 MACMILLAN REFERENCE USA
23. 生命倫理百科事典 全5巻 翻訳刊行委員会編 日本生命倫理学会編集協力 2007年 丸善株式会社

講義:2201講義室

年月日	曜日	時 限	授 業 項 目 ( 内 容 )	コアカリ項目			担 当 者
				大項目	中項目	小項目	
R3.10.5	火	II	漢方医学(I) 気の病態認識(気虚、気うつ、気逆)と方剤 講義レポート	F	2	1	藤野 昭宏
10.12	"	I	漢方医学(II) 血の病態認識(血虚、お血、水毒)と方剤 講義レポート	"	"	"	"
"	"	II	漢方医学(III) 陰陽・虚実・寒熱・表裏による病態認識と方剤 講義レポート	"	"	"	"
10.19	"	I	漢方医学(IV) 陰陽・虚実・寒熱・表裏による病態認識と方剤 講義レポート	"	"	"	"
"	"	II	漢方医学(V) 漢方診察の実際(1) ー実習(I)ー 講義レポート	"	"	"	"
10.26	"	I	漢方医学(VI) 六病位(太陽病期、少陽病期、陽明病期)による病態認識 と方剤 講義レポート	"	"	"	"
"	"	II	漢方医学(VII) 六病位(太陰病期、少陰病期、陰明病期)による病態認識 と方剤 講義レポート	"	"	"	"
11.9	"	I	漢方医学(VIII) 証の決定演習 講義レポート	"	"	"	"
"	"	II	漢方医学(IX) 漢方診察の実際(2) ー実習(II)ー 講義レポート	"	"	"	"
11.16	"	I	死の臨床(I) サナトロジー入門 講義レポート	E	7	"	"
"	"	II	死の臨床(II) ホスピスケアの実際 講義レポート	"	"	"	"
11.22	月	I	臨床倫理学(I) Clinical Ethics演習(1) 講義レポート	A	4	"	"
11.24	水	II	臨床倫理学(II) Clinical Ethics演習(2) 講義レポート	"	"	"	"
12.7	火	I	臨床倫理学(III) Clinical Ethics演習(3) 講義レポート	"	"	"	"
"	"	II	臨床倫理学(IV) Clinical Ethics演習(4) 講義レポート	"	"	"	"